

学校法人立正大学学園 令和6年度決算報告

本学園の令和6年度決算は、理事会ならびに評議員会において承認可決されました。ここにその概要を説明します。

1. 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度の事業活動収入および事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものです。

事業活動収入は17,445,214千円で、対前年度比745,894千円 4.5%増となりました。これは大学学費を値上げしたことによるものです。事業活動支出は16,809,312千円で、対前年度比215,020千円 1.3%減となり、基本金組入額は450,226千円となりました。この結果、当年度収支差額は185,676千円の収入超過となりました。

2. 資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入および支出の内容と支払資金の収入および支出のてん末を明らかにするものです。

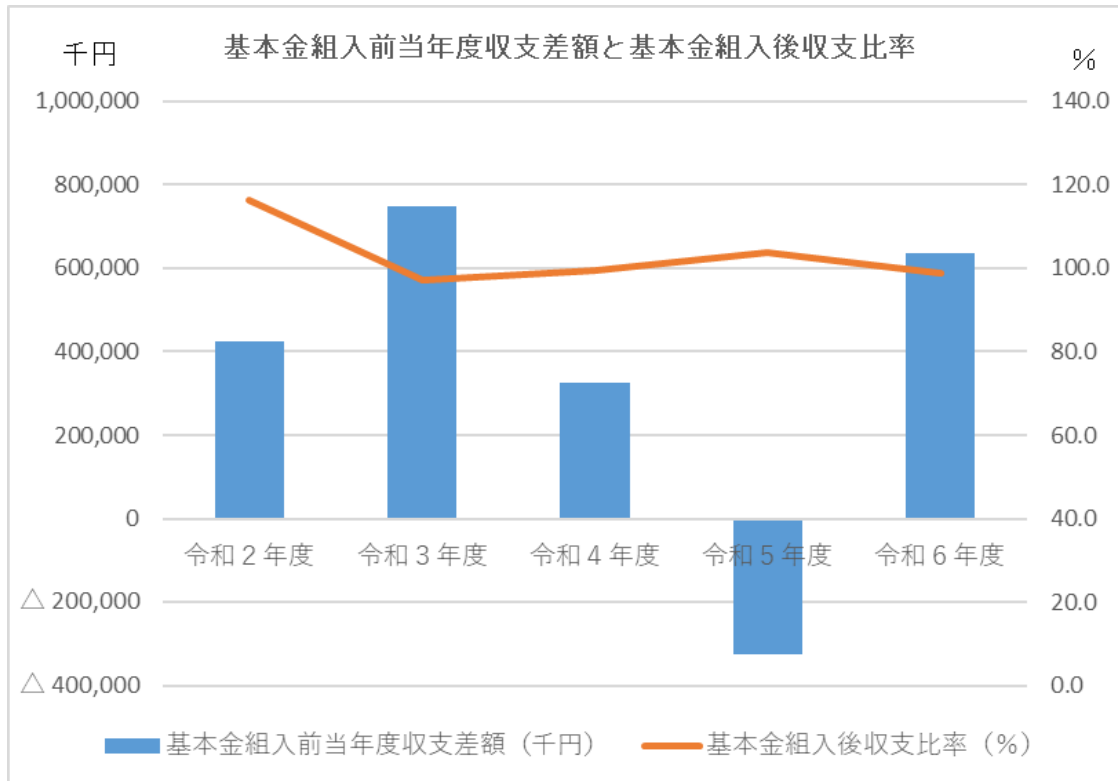
資金の収入額は30,942,847千円でこれに前年度から繰越された支払資金12,505,019千円（令和6年4月1日現在の支払資金残高）を加えた43,447,866千円が当年度の収入総額です。ここから人件費支出以下の当年度中に支出された額29,617,591千円を差し引いた残り13,830,275千円が翌年度へ繰越される支払資金となりました。

3. 貸借対照表について

貸借対照表は、年度末日における資産、負債、純資産の残高を示し、学校法人の財政状態を明らかにするものです。

資産の部合計は、101,864,923千円で対前年度比302,916千円増となりました。負債の部合計は、6,941,967千円で対前年度比332,987千円減となりました。基本金は104,146,105千円で対前年度比450,226千円の増となりました。翌年度繰越収支差額は△9,223,149千円となり、この結果、純資産の部合計は94,922,956千円で対前年度比635,902千円増となりました。純資産構成比率（純資産の総資産に占める割合）は93.2%となっています。

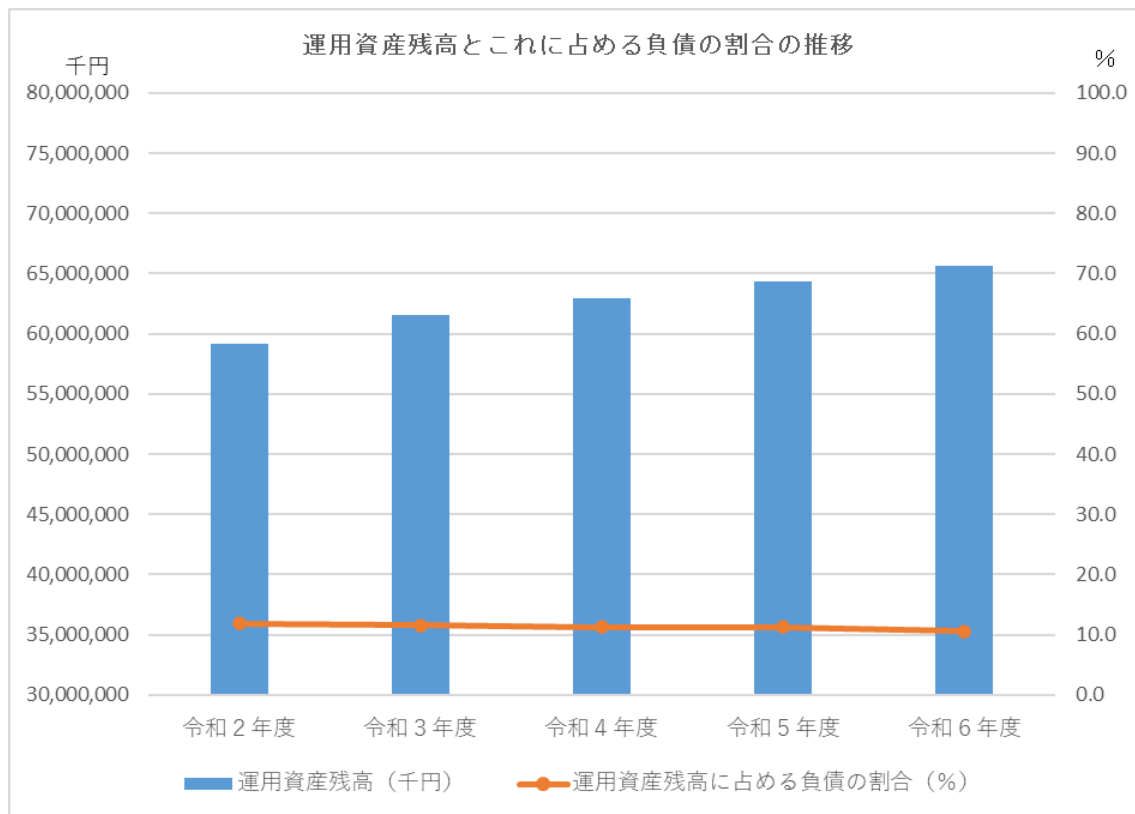
4. 経年比較



	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
基本金組入前当年度収支差額 (千円)	426,035	746,918	325,747	△ 325,012	635,902
基本金組入後収支比率 (%)	116.2	97.2	99.6	103.9	98.9

基本金組入前当年度収支差額は、学校法人の当該年度における実質的な経営成績を表しています。値がプラスであれば事業活動収入で事業活動支出を賄うことができ、プラスの値が大きいほど基本金を組み入れる余力があるとされています。前年度は第2次中期計画における大規模修繕によりマイナスとなりましたが、当年度は再びプラスに転じました。

基本金組入後収支比率は、事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率です。一般的には収支が均衡する100%前後が望ましいとされています。過去5年間をみると、令和2年度は品川キャンパス施設整備事業が行われたため116.2%になっていますが、令和3年度以降は概ね100%前後で推移しています。



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産残高（千円）	59,180,737	61,572,901	62,929,252	64,379,418	65,628,762
運用資産残高に占める負債の割合（％）	11.8	11.5	11.2	11.3	10.6

※ 運用資産＝特定資産＋有価証券（固定資産・流動資産）＋現金預金

運用資産の残高は、なだらかな上昇傾向で推移しています。運用資産残高に占める負債の割合は、その値が100％以内であればすべての負債を運用資産で完済できることを表しています。本学園は概ね11％台で推移しています。

以 上